



# オリンピックと禁煙

## ファクトシート

オリンピック開催都市には受動喫煙防止法(条例)が必須です。

レストラン、バー、移動手段を含む完全禁煙が求められます。

IOCは1988年よりオリンピック大会での禁煙方針をつらぬいています。

招致都市のマドリード、ドーハ、イスタンブールは既に満たしています。

今のままでは、  
招致費(150億円(2016年)、38億円(2020年))は無駄になるでしょう。

# 趣旨

いよいよ、オリンピックの年となり、我々も 2020 年の東京オリンピック開催に期待を寄せています。

しかしながら国際オリンピック委員会 (IOC) は 1988 年以来、オリンピック大会での禁煙方針を採択し、会場の禁煙化とともにタバコ産業のスポンサーシップを拒否してまいりました。2010 年 7 月には WHO とタバコのないオリンピックをめざす協定にも調印しております (資料 1)。

実際、バルセロナ、アトランタ、シドニー、アテネ、北京、ロンドン、リオデジャネイロなど、オリンピック開催都市にはすべて罰則付きの受動喫煙防止法または条例が存在しています。世界一喫煙率の高い中国ですら、北京オリンピック開催のために、北京市に受動喫煙防止条例を制定したことは記憶に新しいところです (資料 2)。

オリンピックを東京へ招致するためには、すべてのレストラン、バー、移動手段を含む受動喫煙防止条例が存在していないことが唯一の弱点になっています。2020 年のオリンピックに立候補している都市のうち、マドリード (スペイン)、ドーハ (カタール)、イスタンブール (トルコ) にはいずれも罰則付きのきびしい受動喫煙防止法がすでに制定されています。

以上のような国際情勢を踏まえますと、東京都が開催を勝ち取るためには、WHO や IOC が求めている国際標準の受動喫煙防止条例を制定することが必須条件であります。それでこそ各国から集まるであろう人々の健康を保証できるからであります (資料 3)。 国際オリンピック委員の 80% は禁煙法が制定されている国に住んでおり、自国民をタバコの煙にさらそうとは思わないでしょう (資料 4)。

## (資料 1) WHO と IOC の健康なライフスタイルに関する合意文書

WHO and the International Olympic Committee sign agreement  
to improve healthy lifestyles

Physical activity can reduce the risk of noncommunicable diseases

News release

21 JULY 2010 | LAUSANNE - WHO and the International Olympic Committee (IOC) are teaming up to promote healthy lifestyle choices, including physical activity, sports for all, Tobacco Free Olympic Games, and the prevention of childhood obesity. As outlined in a memorandum of understanding signed today in Lausanne, the WHO and IOC will work at both the international and country level to promote activities and policy choices to help people reduce their risk of noncommunicable diseases such as cardiovascular disease, cancers, and diabetes.

"This agreement with the International Olympic Committee will help increase our ability and reach in addressing the diseases which are the leading causes of death around the world," said WHO Director-General, Dr Margaret Chan. "Tackling these diseases is one of the major challenges for sustainable development in the twenty-first century."

Noncommunicable diseases kill nearly 35 million people each year, including almost 9 million under the age of 60. Physical inactivity is ranked as the fourth leading risk factor for all deaths globally, contributing to 1.9 million deaths each year.

Promoting healthy lifestyles

"The IOC and the WHO are both eager to promote healthy lifestyles and grassroots sports activities worldwide, and today's agreement is an important step to better form synergies between our various initiatives in this field," said IOC President Jacques Rogge. "It is about acting in concert to get everybody moving and thus reduce the risk of noncommunicable diseases across all age groups."

Almost 90% of fatalities before the age of 60 occur in developing countries and can be largely prevented by reducing the level of exposure to tobacco use, unhealthy diet and physical inactivity.

Noncommunicable disease deaths are increasing in all regions of the world. If trends continue unabated, deaths will rise to an estimated 41.2 million a year by 2015.

## 資料 1 【和訳】

世界保健機関（WHO）と国際オリンピック委員会（IOC）は、すべての人々に運動とスポーツを奨励し、タバコのないオリンピックを実現し、子どもの肥満を予防するために健康的なライフスタイルを奨励することを共同で行う合意に達した。

本日ローザンヌにおいて署名された合意内容の覚書にあるように、WHO と IOC は国際レベルでも、国内レベルでも、心臓病、ガン、糖尿病などの生活習慣病のリスクを減らすための活動と政策を推進するために協力することになった。

WHO 事務総長マーガレット・チャン氏はこう語った。「この IOC との合意は、全世界の最大の死亡原因となっている疾患を減らす活動を強化するものである。21 世紀における世界の持続的な発展を達成するためには、これらの疾患を減らす対策が不可欠である。」

生活習慣病は、世界で毎年 3500 万人の命を奪っている。うち 900 万人は 60 才以下の死亡である。運動不足は世界で 4 番目の死亡リスク因子であり、毎年 190 万人の死亡原因となっている。

### 健康的なライフスタイルの推進

「健康的なライフスタイルと草の根のスポーツ運動を広げることは IOC と WHO の共通の目標であり、本日の合意は、この 2 機関が行っている様々な先導活動の間に相乗効果を生むことになろう。」とジャック・ロゲ IOC 会長はのべた。「すべての年代の生活習慣病を減らす活動をすべての人々が協力して実行できるようにする事がこの合意の本旨だ。」

60 才以前の死亡の約 90% は発展途上国で発生しており、タバコ使用、健康的でない食習慣、運動不足をなくすることで予防できる。

生活習慣病による死亡は、世界中のすべての地域で増えつつある。もし適切な対策が講じられなければ、2015 年には 4120 万人が死亡すると推定されている。

For more information please contact:

Fadéla Chaib

WHO Communications Officer

Telephone: +41 22 791 32 28

Mobile: +41 79 475 55 56

Email: chaibf@who.int

Timothy Armstrong

Coordinator, Department of Chronic Diseases and Health Promotion

Telephone: +41 22 971 1274

Mobile +41 79 445 2026

Email: armstrongt@who.int

## タバコのないオリンピックについての 5 問 5 答

世界保健機関中国代表部

タバコのないオリンピック実現の意義と背景

- 1988 年カルガリー大会以後、IOC の方針としてオリンピックの禁煙原則が貫かれている
- 北京大会は、2005 年の WHO タバコ規制国際枠組み条約（FCTC）の発効後初めての夏季大会である。
- ブルームバーグ・イニシアティブおよびタバコフリーキッズキャンペーン、国際肺基金、ジョンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ校公衆衛生学部、米国疾病予防センターなどの協力により、オリンピック北京大会の禁煙を後押しされた。WHO タバコフリーイニシアティブは、WHO 加盟国とブルームバーグ・イニシアティブ等によりサポートされている。

問 1：WHO はタバコのないオリンピック北京大会にどのような立場をとっているのですか？

タバコのないオリンピック大会は、中国にとって素晴らしいきっかけとなります。中国のいくつかの都市では、北京にならって、公共施設と職場を禁煙にする条例を立案しています。

タバコの広告を制限する法律も準備されています。都市段階でタバコ広告を規制する条例も作られました（瀋陽、上海、青島、秦皇島、天津など）。

このような運動を見ると、中国でもタバコの害をなくすことが可能であるという希望を抱くことができます。

また、FCTC の実践に対する中国の国際貢献を証明することにつながります。

問 2：オリンピック後も、中国の禁煙化政策は続くのでしょうか？

国際社会に対する約束である FCTC 批准を通じて、中国は、すでにタバコの流行を防ぐことを国の方針と定めたのです。数多くの地方都市レベルでタバコ規制対策が採択され、実施されることが、すべての中国国民をタバコから守り健康を増進するための国としての法律を作る準備につながるものと確信します。

世界各国の経験で、ひとたびタバコの煙のない環境が法律によって実現されたなら、誰も後戻りすることを望まない事が証明されています。

オリンピックをきっかけにして北京でタバコの広告が禁止され公共の場が禁煙にされると、すべての中国国民がそのような状態を享受したいと思うようになり、オリンピックが

大きな健康遺産を遺すきっかけになるでしょう。

問3：本当にタバコの煙のないオリンピックが実現できるのですか？

できます。

大会の会場内はすべて禁煙とする決まりが準備されています。それだけでなく、タバコのないオリンピックのための新しい基準も用意されます。

会場へライターを持ち込むことは禁止されます。

また、会場周辺も禁煙とされます。

大会期間中、ショートメッセージテキスト等を活用して、禁煙のメッセージを拡散するという新たな試みも実施されることになっています。IOC も北京組織委員会もタバコのないオリンピックを開催する方針を決めています。

オリンピックのマスコットキャラクターのジンジン（→）もタバコのないオリンピックのメッセージ普及に協力しているのは喜ばしいことです。

タバコの害を述べて、人々に禁煙を訴える記事を掲載した地方新聞もあります。



問4：WHOはオリンピックの禁煙化にどのように取り組んできたのですか？

2006年、WHOはタバコのないオリンピックを実現するためのワークショップを開催しました。

シドニーオリンピック禁煙化を担当したWHOのコンサルタントが、中国本土の大会開催地の全都市を訪れて、シドニーオリンピックの経験や教訓を説明しました。

WHOは本年5月1日に施行される北京市禁煙条例の草案準備作業に協力しました。WHO受動喫煙防止対策勧告（WHO Protection from Exposure to Second Hand Smoke Policy Recommendations 日本語訳→[http://www.nosmoke55.jp/data/0706who\\_shs\\_matuzaki.html](http://www.nosmoke55.jp/data/0706who_shs_matuzaki.html)）およびFCTC第8条施行ガイドライン（Guidelines for the Implementation of the WHO Framework Convention on Tobacco Control Article 8 日本語訳→<http://www.nosmoke55.jp/data/0707cop2.html>）の内容に沿ってアドバイスをを行いました。

WHOはまた、北京市組織委員会の要請にこたえて、大会を真の意味で禁煙にするための対策について支援を行いました。首脳レベルで、WHOがIOCに対してタバコのないオリンピックの定義についての技術的支援を行いました。禁煙化の徹底に当たり、その必要性和正しい方向のための指針としてFCTCが活用されました。中国は2005年にFCTCを調

印しました。これまでに 160 カ国が批准しています。

**問 5 : WHO はタバコ問題にどう取り組んでいるのですか?**

WHO の MPOWER パッケージをご覧ください。これはタバコの蔓延と甚大な被害を防ぐための 6 分野の対策を記したものです。M : タバコ使用率とタバコ対策のモニター、P : 受動喫煙から人々をプロテクトする、O : タバコ使用をやめる援助をオファーする、W : タバコの害を警告（ワーニング）する、E : タバコの広告、販促、スポンサー活動禁止の徹底（エンフォースメント）、R : タバコ税増税（レイズ）。WHO はこれらの政策群の実施に関して中国政府を援助しています。

**中国におけるタバコの現状**

- 15-69 才男性の喫煙率 57.4%
- 15-69 才女性の喫煙率 2.6%
- 能動喫煙者 3 億 5 千万人
- 受動喫煙者 5 億 4 千万人
- タバコによる死亡 年間 100 万人
- タバコによる経済損害 年間 50 億ドル
- FCTC 批准 2005 年。2009 年 1 月までに第 11 条（タバコのパッケージ・ラベル、有害警告表示）、2011 年 1 月までに第 8 条（受動喫煙防止）の実施を誓約。

（以下略）

**【原文】**

**Tobacco-free Olympics - Q&As**

**Tobacco-Free Olympics: Questions and Answers**

**WHO Representative Office, China**

**Background on tobacco-free Olympics**

- All Olympics have been tobacco-free in principle since the Calgary Winter Games in 1988 through International Olympic Committee policy

- This is first summer Olympics since the WHO Framework Convention on Tobacco Control came into force in 2005

- The Bloomberg Initiative and partners including the Union, World Lung Foundation, Campaign for Tobacco Free Kids, Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health, US Centers for Disease Control have contributed to making the Beijing Olympics tobacco-free.

The World Health Organization's Tobacco Free Initiative is supported by WHO's member states as well as by the Bloomberg Initiative and other donors.

**Q1: What is WHO's position on the tobacco-free Olympics?**

The tobacco-free Games are a fabulous catalyst for China. Several of the country's Olympic cities have followed Beijing's lead on drafting regulations to create smoke-free public places and workplaces. National legislation is in place to ban tobacco advertising in certain media and venues. Now municipal regulations on limits to tobacco advertising are being put in place as well (for example, in the cities of Shenyang, Shanghai, Qingdao, Qinhuangdao, Tianjin). These activities are very important because they are providing hope that it is possible to stop the harm caused by tobacco in China. They also contribute towards honouring China's existing commitments under the WHO Framework Convention on Tobacco Control.

**Q2: Will these initiatives be carried forward? Will there be a lasting smoke-free legacy?**

Through the WHO Framework Convention on Tobacco Control, a global public health treaty, China has already made fighting the tobacco epidemic a national policy. Once tobacco control legislation is adopted, implemented and proven at the municipal level in a critical number of cities, we can anticipate national legislation to follow so that everyone in China can be protected from tobacco and enjoy improved health. In our experience around the globe, once people enjoy smoke-free environments, they do not want to go back to the old ways. Policies like the municipal tobacco advertising bans and creation of smoke-free public places will ensure that the Games will have a health legacy that the Chinese people will enjoy for decades to come.

**Q3: Will these really be smoke-free Olympics?**

Yes, all the regulations are in place to make these Games smoke-free inside, and even set a new standard for tobacco-free Olympics. Lighters are not allowed in the competition venues and even outdoor venues are smoke-free. Innovations for tobacco control, like SMS texting, are expected to be featured for the first time at these Games to spread the smoke-free message.

Both the International Olympic Committee and the Beijing Organising Committee for the Olympic Games have tobacco-free policies in place.

We were pleased to see Olympic mascot Jingjing helping to spread the tobacco-free message. In an article in a local paper, he explained the dangers of tobacco and encouraged people to stop smoking.

**Q4: What has WHO done to make these Olympics tobacco-free?**

In 2006, WHO convened a workshop on the tobacco-free Games. A WHO consultant who had worked to make the Sydney Olympics smoke-free visited all the mainland Olympic cities to share experiences and lessons learned from Sydney.

WHO provided input to the drafting of the Beijing smoke-free regulations that went into force on May 1st of this year. This advice was based on the WHO Protection from Exposure to

Second Hand Smoke Policy Recommendations as well as the Guidelines for the Implementation of the WHO Framework Convention on Tobacco Control Article 8 on the same topic.

WHO also responded to requests from the Beijing Organizing Committee on the Olympic Games for support on making the Games truly tobacco-free.

At Headquarters level, WHO provided technical support to the International Olympic Committee on its definition of the tobacco-free Games.

WHO Framework Convention on Tobacco Control is also a key document that raises awareness of the issues and points signatories in the right direction. China ratified the convention in 2005. Another 160 countries have also signed on.

**Q5: What is WHO doing on tobacco in general?**

WHO's MPOWER package is a set of six policies that can counter the tobacco epidemic and reduce its deadly toll. The six policies are: Monitor tobacco use and prevention policies; Protect people from tobacco smoke; Offer help to quit tobacco use; Warn about the dangers of tobacco; Enforce bans on tobacco advertising, promotion and sponsorship; and Raise taxes on tobacco. WHO is supporting the Chinese Government in implementing this package..

**China Tobacco Facts**

- 57.4% of males age 15-69 are current cigarette smokers.
- 2.6% of females age 15-69 are current cigarette smokers
- Number of active smokers: 350 million
- Number of people affected by second-hand smoke: 540 million
- Preventable tobacco-related deaths per year: 1 million
- Economic cost of tobacco per year: US\$5 billion
- China ratified the WHO FCTC in 2005. China has committed to implementing article 11 on packaging and labeling of tobacco products by January 2009 and article 8 on protection from exposure to tobacco smoke by January 2011.

**Acronyms**

**IOC:** International Olympic Committee

**BOCOG:** Beijing Organizing Committee for the Olympic Games

**WHO:** World Health Organization

**WHO FCTC:** The WHO Framework Convention on Tobacco Control. The WHO FCTC, the first treaty negotiated under the auspices of the WHO, was developed in response to the globalization of the tobacco epidemic. The WHO FCTC is an evidence-based treaty that reaffirms the right of all people to the highest standard of health. The WHO FCTC represents a paradigm shift in developing a regulatory strategy to address addictive substances; in contrast to previous drug control treaties, the WHO FCTC asserts the importance of demand reduction

strategies as well as supply issues.

**MPOWER:** WHO's MPOWER package is a set of six policies that can counter the tobacco epidemic and reduce its deadly toll. The six policies are the following:

**M**onitor tobacco use and prevention policies;

**P**rotect people from tobacco smoke;

**O**ffer help to quit tobacco use;

**W**arn about the dangers of tobacco;

**E**nforce bans on tobacco advertising, promotion and sponsorship; and

**R**aise taxes on tobacco.

**:: 8 Facts on the Tobacco-free Beijing Olympic Games**

©World Health Organization Representative Office in China 2006

Updated 27 May 2010

### 資料 3

#### < WHO たばこ規制枠組条約 (FCTC) >

#### Framework Convention on Tobacco Control

本条約は、喫煙・受動喫煙が健康、社会、経済および環境に及ぼす壊滅的影響から、現在および将来の世代を保護する目的で WHO により制定された国際条約です。2005 年 2 月 27 日に発効し、現在日本を含め 174 か国が批准しており、主な条項は下記のとおりです。

- ・ タバコ需要減少のための課税・値上げ (第 6 条)
- ・ 価格以外の包括的タバコ需要減少措置 (第 7 条)
- ・ 受動喫煙防止／屋内完全禁煙化 (第 8 条)
- ・ 含有物に対する管理、規制 (第 9 条)
- ・ 含有物などの情報公開義務 (第 10 条)
- ・ パッケージ表示の規制 (第 11 条)
- ・ 教育、情報伝達、啓発 (第 12 条)
- ・ タバコ広告、販売促進、スポンサー活動等の禁止 (第 13 条)
- ・ 禁煙支援の普及、実施 (第 14 条)
- ・ 不正取引 (密輸) 対策 (第 15 条)
- ・ 未成年への販売促進 (無償配布・ばら売り) 禁止 (第 16 条)
- ・ タバコ農家や小売り業者への転業支援 (第 17 条)
- ・ タバコ栽培、製造による環境破壊や健康被害防止 (第 18 条)

たばこ規制枠組条約 (FCTC) は、あまりに健康被害が大きいタバコに対して、また健康被害の大きさを矮小化しようとするタバコ会社に対して包括的な規制を行うために、WHO が制定した国際条約です。

FCTC は受動喫煙防止対策等を定めるだけでなく、未成年および社会への影響力拡大を阻止するため、タバコ会社によるスポーツ・イベント等での広告・スポンサー活動も禁止しております。

WHO は、各国でタバコ規制政策を実施する際には、タバコ産業の既得権益から政策を守るために、タバコ産業からの寄付や天下りを禁止し、提携や便益供与を排除すべきであるとしています (第 5 条 3 項)。

# 国際オリンピック委員会 115 名

受動喫煙防止法あり

オマーン  
サウジアラビア  
クウェート  
ヨルダン  
アラブ首長国連邦  
カタール  
モナコ  
ドイツ  
スイス  
スイス  
ドイツ  
コロンビア  
イタリア  
スペイン  
イタリア  
オーストラリア  
イギリス  
アメリカ  
ペルー  
フランス  
アメリカ  
エジプト  
トルコ  
スイス  
香港  
キューバ  
オーストラリア  
ナイジェリア  
ノルウェー  
ルクセンブルク  
アイルランド  
マレーシア  
タイ

グアテマラ

スイス  
ニュージーランド  
レバノン  
フランス  
フィンランド  
韓国  
リヒテンシュタイン  
スウェーデン  
ニュージーランド  
ウルグアイ  
アイルランド  
韓国  
シリア  
シンガポール  
ギリシャ  
ブラジル  
オランダ  
スイス  
イギリス  
スペイン  
イタリア  
スウェーデン  
カナダ  
南アフリカ  
イギリス  
イタリア  
ベルギー  
イギリス  
キューバ  
エジプト  
スペイン  
パナマ  
アメリカ

カナダ

バルバドス  
インド  
インドネシア  
フィンランド  
メキシコ  
メキシコ  
アルゼンチン  
台北  
中国  
中国  
デンマーク  
プエルトリコ  
イスラエル  
オーストリア  
フィジー  
パキスタン  
ハンガリー  
クロアチア

受動喫煙防止法なし

ガンビア  
エチオピア  
ウクライナ  
ウクライナ  
ザンビア  
北朝鮮  
セネガル  
ギニア  
モロッコ  
モロッコ  
フィリッピン  
ナミビア  
アルバ  
ブルンジ  
セントルシア  
ロシア  
ロシア  
ポーランド  
ロシア  
チェコ

受動喫煙防止法  
が制定されてい  
る国 =82%

NPO 法人 日本禁煙学会

理事長 作田 学 発行

2012 年 3 月 15 日 200 円

東京都新宿区市谷薬王寺町